

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年11月7日

【四半期会計期間】 第20期第3四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

【会社名】 K L a b株式会社

【英訳名】 K L a b I n c .

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 森田 英克

【本店の所在の場所】 東京都港区六本木六丁目10番1号

【電話番号】 03 - 5771 - 1100

【事務連絡者氏名】 専務取締役 高田 和幸

【最寄りの連絡場所】 東京都港区六本木六丁目10番1号

【電話番号】 03 - 5771 - 1100

【事務連絡者氏名】 専務取締役 高田 和幸

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第19期 第3四半期 連結累計期間	第20期 第3四半期 連結累計期間	第19期
会計期間		自 2018年1月1日 至 2018年9月30日	自 2019年1月1日 至 2019年9月30日	自 2018年1月1日 至 2018年12月31日
売上高	(千円)	24,936,298	22,377,930	32,673,737
経常利益	(千円)	4,109,586	1,568,781	4,997,997
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(千円)	2,629,362	1,216,178	2,570,002
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	2,635,129	1,367,288	2,421,804
純資産額	(千円)	14,617,496	17,290,467	14,466,653
総資産額	(千円)	19,998,633	23,415,112	19,245,204
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	70.60	32.40	69.03
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	67.96	31.79	66.59
自己資本比率	(%)	73.0	69.2	75.1

回次		第19期 第3四半期 連結会計期間	第20期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	24.58	11.05

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動については、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)」に記載のとおりであります。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクは以下のとおりです。

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

・ベンチャーキャピタル事業について

当社は、シード・アーリーステージのインターネット企業や創業間もないベンチャー企業に対し、積極的な投資実行及び支援活動を展開する株式会社KVP（2019年4月22日にKLab Venture Partners株式会社から商号変更）を2015年10月21日に設立し、第1四半期連結会計期間より新規に連結しております。投資実行に際しては、通常、投資先企業の有価証券を保有することとなりますが、投資先企業の価値が投資実行時と比べ著しく低下した場合には、当該有価証券にかかる損失処理や投資資金の回収期間の長期化が発生するなど、当社グループの業績及び財政状況に影響を与える可能性があります。

なお、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間の売上高は22,377,930千円となり、前年同期比10.3%の減少となりました。2019年4月23日にリリースした「禍つヴァールハイト」及び2019年9月26日にリリースした「ラブライブ！スクールアイドルフェスティバル ALL STARS」の売上を計上しましたが、主に「ラブライブ！スクールアイドルフェスティバル」及び「キャプテン翼 ～たたかえドリームチーム～」の売上が減少したことが売上高減少の要因となっております。

費用面では、売上原価は16,836,879千円となり、前年同期比1.0%の増加となりました。売上減少に伴い支払手数料が減少した一方で、「禍つヴァールハイト」及び「ラブライブ！スクールアイドルフェスティバル ALL STARS」の減価償却費計上のほかゲーム開発や運営にかかる労務費や外注費が増加したことが売上原価増加の要因となっております。

販売費及び一般管理費は3,830,042千円となり、前年同期比10.3%の減少となりました。これは主に、広告宣伝費が減少したことによるものです。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高22,377,930千円（前年同期比10.3%減）、営業利益1,711,007千円（前年同期比57.1%減）、経常利益1,568,781千円（前年同期比61.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,216,178千円（前年同期比53.7%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は23,415,112千円となり、前連結会計年度末に比べ、4,169,907千円の増加となりました。

流動資産合計は12,866,198千円となり、前連結会計年度末に比べ、3,620,554千円の増加となりました。これは主に、売掛金の増加によるものです。

固定資産合計は10,548,913千円となり、前連結会計年度末に比べ、549,353千円の増加となりました。これは主に、ソフトウェアの増加によるものです。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は6,124,644千円となり、前連結会計年度末に比べ、1,346,094千円の増加となりました。

流動負債合計は4,657,690千円となり、前連結会計年度末に比べ、14,539千円の減少となりました。これは主に、未払法人税等の減少によるものです。

固定負債合計は1,466,954千円となり、前連結会計年度末に比べ、1,360,633千円の増加となりました。これは主に、長期借入金の増加によるものです。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は17,290,467千円となり、前連結会計年度末に比べ、2,823,813千円の増加となりました。これは主に、利益剰余金の増加によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、77,015千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	93,618,000
計	93,618,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月7日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	38,097,800	38,145,100	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 また、単元株式数は100株となっております。
計	38,097,800	38,145,100		

- (注) 1. 提出日現在の発行株式のうち336,000株は、譲渡制限付株式報酬として自己株式を処分した際の現物出資(金銭報酬債権 426,048千円)によるものであります。
2. 提出日現在発行数には、2019年11月1日から当四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日 (注)1	347,600	38,097,800	69,372	4,798,909	69,372	4,494,664

- (注) 1. 新株予約権の行使による増加であります。
2. 2019年10月1日から2019年10月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が47,300株、資本金及び資本準備金がそれぞれ14,339千円増加しております。

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 125,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 37,965,400	379,654	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 7,300		
発行済株式総数	38,097,800		
総株主の議決権		379,654	

(注) 上記の「完全議決権株式(その他)」の欄には、「従業員持株会信託」所有の株式が、61,400株(議決権の数614個)含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) K L a b株式会社	東京都港区六本木6丁目10-1	125,100		125,100	0.32
計		125,100		125,100	0.32

(注) 上記の他、四半期連結財務諸表において自己株式として認識している当社株式は61,400株であります。これは、「従業員持株会信託」が保有する当社株式であります。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年1月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,749,486	5,626,584
受取手形及び売掛金	2,392,986	3,989,585
営業投資有価証券	-	1,341,910
その他	2,109,995	1,910,344
貸倒引当金	6,823	2,226
流動資産合計	9,245,644	12,866,198
固定資産		
有形固定資産	393,961	460,561
無形固定資産		
ソフトウェア	541,324	4,086,477
のれん	757,864	690,994
その他	3,817,431	1,084,205
無形固定資産合計	5,116,620	5,861,677
投資その他の資産		
投資有価証券	1,959,453	2,335,344
その他	2,787,358	1,894,186
貸倒引当金	257,834	2,855
投資その他の資産合計	4,488,978	4,226,674
固定資産合計	9,999,560	10,548,913
資産合計	19,245,204	23,415,112
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,315,204	2,265,708
賞与引当金	120,364	33,421
1年内返済予定の長期借入金	-	641,760
その他	2,236,660	1,716,800
流動負債合計	4,672,230	4,657,690
固定負債		
長期借入金	103,483	1,466,954
その他	2,837	-
固定負債合計	106,320	1,466,954
負債合計	4,778,550	6,124,644
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,720,530	4,798,909
資本剰余金	4,582,437	4,514,327
利益剰余金	5,843,464	7,059,642
自己株式	620,008	284,627
株主資本合計	14,526,423	16,088,251
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	68,026	77,136
為替換算調整勘定	7,815	28,733
その他の包括利益累計額合計	75,842	105,870
新株予約権	16,072	14,773
非支配株主持分	-	1,081,572
純資産合計	14,466,653	17,290,467
負債純資産合計	19,245,204	23,415,112

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年1月1日 至2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年9月30日)
売上高	24,936,298	22,377,930
売上原価	16,675,313	16,836,879
売上総利益	8,260,985	5,541,050
販売費及び一般管理費	4,271,345	3,830,042
営業利益	3,989,640	1,711,007
営業外収益		
受取利息	24,199	20,882
受取配当金	22,042	24,245
持分法による投資利益	7,597	-
為替差益	47,032	-
その他	21,537	23,567
営業外収益合計	122,408	68,696
営業外費用		
支払利息	511	3,666
出資金清算損	600	-
持分法による投資損失	-	14,637
為替差損	-	187,790
自己株式取得費用	999	-
その他	352	4,827
営業外費用合計	2,462	210,922
経常利益	4,109,586	1,568,781
特別利益		
投資有価証券売却益	-	2,100
その他	293	308
特別利益合計	293	2,408
特別損失		
固定資産除却損	314	2,915
特別損失合計	314	2,915
税金等調整前四半期純利益	4,109,565	1,568,274
法人税等	1,480,203	381,725
四半期純利益	2,629,362	1,186,548
非支配株主に帰属する四半期純損失()	-	29,629
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,629,362	1,216,178

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	2,629,362	1,186,548
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,536	158,093
為替換算調整勘定	24,918	36,549
持分法適用会社に対する持分相当額	12,615	13,902
その他の包括利益合計	5,767	180,740
四半期包括利益	2,635,129	1,367,288
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,635,129	1,397,890
非支配株主に係る四半期包括利益	-	30,602

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
(連結の範囲の重要な変更) 第1四半期連結会計期間より、重要性が増したため、持分法適用会社であった株式会社KVP(2019年4月22日にKLab Venture Partners株式会社から商号変更)及びKVPシード・イノベーション1号投資事業有限責任組合、並びに非連結子会社であったKVPシード・イノベーション2号投資事業有限責任組合を連結の範囲に含めております。 また、第1四半期連結会計期間において、KLab Entertainment株式会社は清算が終了したため、連結の範囲から除外しております。 当第3四半期連結会計期間において、KLab America, Inc.は清算が終了したため、連結の範囲から除外しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。 ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれん償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
減価償却費	715,914千円	1,181,718千円
のれん償却額	66,870千円	66,870千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年2月13日 取締役会	普通株式	334,958	9	2017年12月31日	2018年3月8日	利益剰余金

(注) 2018年2月13日取締役会決議による配当金については、特別配当となります。

2. 株主資本の著しい変動

(自己株式の消却)

2018年3月19日開催の取締役会決議に基づき、2018年3月27日付で、自己株式870,000株の消却を実施いたしました。

(自己株式の処分と取得)

2018年3月28日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬としての自己株式168,000株の処分の実施と、自己株式261,100株の取得を行いました。また、2018年9月4日開催の取締役会決議に基づき、「従業員持株会信託型E S O P」制度を導入したことにより、「従業員持株会信託」が当社株式を109,200株取得いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間において、資本剰余金が166,152千円増加した一方で、利益剰余金が602,910千円、自己株式が109,871千円それぞれ減少し、当第3四半期連結会計期間末において、資本剰余金が4,556,895千円、利益剰余金が5,902,824千円、自己株式が631,865千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動

当社は、2019年3月25日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬としての自己株式168,000株の処分を行っております。この結果、当第3四半期連結累計期間において、資本剰余金が155,904千円、自己株式が299,208千円それぞれ減少し、当第3四半期連結会計期間末において、資本剰余金が4,514,327千円、自己株式が284,627千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	ゲーム事業				
売上高					
外部顧客への売上高	24,728,388	207,910	24,936,298	-	24,936,298
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,552	-	5,552	5,552	-
計	24,733,941	207,910	24,941,851	5,552	24,936,298
セグメント利益	8,197,323	63,143	8,260,466	518	8,260,985

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、リサーチ&コンサルティング事業・その他事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額518千円は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上総利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	四半期連結損益計算書計上額 (注) 2
	ゲーム事業		
売上高			
外部顧客への売上高	22,106,817	271,113	22,377,930
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	22,106,817	271,113	22,377,930
セグメント利益	5,474,753	66,297	5,541,050

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、リサーチ&コンサルティング事業・ベンチャーキャピタル事業・その他事業を含んでおります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の売上総利益と一致しているため差異調整は行っておりません。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、ベンチャーキャピタル事業を営む株式会社KVP(2019年4月22日にKLab Venture Partners株式会社から商号変更)、KVPシード・イノベーション1号投資事業有限責任組合及びKVPシード・イノベーション2号投資事業有限責任組合を連結の範囲に含めたことに伴い、「ベンチャーキャピタル事業」を事業セグメントとし、「その他」の区分に含めて記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	70円60銭	32円40銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	2,629,362	1,216,178
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	2,629,362	1,216,178
普通株式の期中平均株式数(株)	37,241,815	37,538,563
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	67円96銭	31円79銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	1,449,637	719,263
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり四半期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

1株当たり四半期純利益の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数は前第3四半期連結累計期間5,200株、当第3四半期連結累計期間81,318株であります。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月7日

K L a b株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 由 良 知 久 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 根 本 知 香 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているK L a b株式会社の2019年1月1日から2019年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年1月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、K L a b株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。